

画論 27th The Best Image 参加報告

社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院 診療放射線科 君島 誠

今回、令和元年12月15日にCANON本社にて開催された画論 27th The Best Imageに参加する機会に恵まれましたので、その中でのCT Discussionについて報告させていただきます。

今回の入賞では、造影剤を用いた検査において造影剤を減量するのではなく全く造影剤を使用しないで血管や胆管を描出するという新たな試みを用いたものが目立っていたと思います。

まず、岡山赤十字病院の肺癌の手術支援画像では、単純画像を2倍に加算させてから脂肪のCT値を引き算することでVINCENTの肺動静脈分離の精度を上げるというもので、末梢血管に関しては更にワークステーションを駆使して後で合成させており、造影剤を使用していないとは思えないほどの画像を提供していました。当院でもVATSやアブレーション術前で肺動静脈の検査が出ることがあり、その中には腎機能が悪い場合造影剤を使用できない症例があることから大変参考になりました。

また、国立がん研究センター中央病院の胆管非造影CTを用いた手術支援画像では、肝DynamicCTにおける門脈相と単純CTとでCE Boostすることで肝実質と胆管のコントラストを増強させ、胆管を描出させる非DIC-CT画像を提供していました。造影されている箇所を更にCT値を向上させてより明瞭にするCE Boostを使用して、造影されない場所のコントラスト差をつけるという発想は大変興味深いものでした。

さらに、仙台厚生病院のTAVI術前造影CTライクイメージでは、単純MRI画像とCT画像をfusionさせることで造影剤を使用することなくTAVI術前評価を可能としていました。これまでTAVI術前では造影CT検査が必須とされている中で新たな非造影検査が提案されており、今後当院でもTAVIを行う予定であることから積極的に取り入れていきたいと思いました。

最後に今回北海道ではCT部門の入賞は残念ながら無かったのですが、自分も次回の画論の入賞を目指して創意工夫し、日々の業務を遂行していきたいと思っています。